

平成 19 年度研究報告書

研究代表者

島根難病研究所研究部門 小児難病部門

所属 どれみクリニック小児科

氏名 羽根田紀幸

1. 研究テーマ

「モンゴル国へ渡航しての小児心疾患に対するカテーテル治療の実践・技術指導と疫学共同研究 - Heart Saving Project in Mongolia」

2. 研究者氏名

羽根田紀幸¹、富田英²、黒江兼司³、野木俊二⁴、堀口泰典⁵、矢野宏⁶、檜垣高史⁷、田村真通⁸、上田秀明⁹、片岡功一¹⁰、山本英一¹¹、宇佐美博幸¹²、伊藤康弘¹³、エンヘサイハン¹⁴、ボーヤ¹⁵、パーサンジャブ¹⁶、ビャンバスレン¹⁷、オリギリ¹⁸、ジャミアン¹⁹、アンガラグ²⁰

3. 研究概要

(目的と方法)

立ち遅れている小児循環器医療のために治療が放置されているモンゴルの先天性心疾患児

-
- 1 財団法人島根難病研究所小児循環器班
 - 2 昭和大学横浜市北部病院循環器センター
 - 3 神戸徳洲会病院小児科
 - 4 茅ヶ崎徳洲会総合病院小児科
 - 5 KKR 立川病院小児科
 - 6 カワニシ岡山支店松江営業所
 - 7 愛媛大学医学部附属病院小児科
 - 8 秋田大学医学部附属病院小児科
 - 9 神奈川県立こども医療センター循環器科
 - 10 高知医療センター小児科
 - 11 愛媛県立中央病院小児科
 - 12 宇佐美写真事務所
 - 13 宇佐美写真事務所
 - 14 米国テキサス州ベイラー大学小児科
 - 15 モンゴルの病気の子どものための基金
 - 16 モンゴル国立医学研究所
 - 17 モンゴル国立母子保健センター小児循環器科
 - 18 モンゴルの病気の子どものための基金
 - 19 島根大学医学部小児科
 - 20 モンゴル国ウランバートル市アンガラグ旅行社

を1人でも多く救うことと、あわせてモンゴルの小児循環器医療の自立を目指して平成13年10月よりカテーテル治療を中心としたモンゴル渡航診療を行ってきたが、第8回となる平成19年度の活動は平成18年8月8日～15日の日程で渡航した。いままでと同じく全国から有志を募り、資金は広く日本国内からの募金により、器材はその募金によって日本国内で調達して手荷物として持ち込んだ。今回は、日本人医療チームは小児循環器医師9名を中心に臨床工学士・カメラマン・など計11名で編成した。

渡航前には、我々の渡航を心待ちにしているという話と、日本人医師はたくさんの子どもの治療をしてくれるが限られた時間にたくさん診療するため、大人数で来てただ診療をするだけでモンゴル人医師への指導が充分ではないという意見が寄せられていた。

そこで19年度の活動は、カテーテル治療の件数を減らし、1例毎のカンファレンスや1日終了時のカンファレンスに時間をかけた。また要人との会見も大切と考えて、元日本大使でモンゴル外務省アジア局長フレルバートル氏・駐モンゴル日本大使・モンゴル保健省副大臣・大統領補佐官・2つの国立病院の院長など要人との会見も行った。

ウランバートルでは計75名の患者に診察と心エコー検査を行った。前もって送られて来る患者リストが遅かったため、10名分の治療器材しか準備できなかったため、カテーテル治療は10名の動脈管開存患者に対して行った。また2名に診断だけのカテーテルを行った。徹底したカンファレンスを行ったので、モンゴルの心臓小児科医・心臓血管外科医とも大変喜んでくれた。終了後のカンファレンスでは、次年度我々が渡航した時に治療をすることを約束したのが11名、米国外科チームがモンゴルへ渡航することになっているようで、その時の手術を勧めたのが4名、モンゴルの外科医による手術が8名、外国へ渡航しての手術が3名、あとは経過観察とした。

地方検診は、現在島根大学小児科に留学中のジャミアン医師の故郷で、ウランバートルから700km離れたフブスグルへ行った。前半は舗装道路であったが、後半の320kmはオフロードで、車で片道2日を要した。前もって帰国していたジャミアン医師が万端を整えており、オフロードの移動以外は快適であった。検診は1日でおよそ90名が来院した。

モンゴルの子どもを本気で案じているモンゴル人がたくさんおり、彼らもこのプロジェクトが長く続くことを期待している、ということが実感できたことが話し合いを主とした今回の渡航の最も大きな成果であった。活動資金は全面的に日本での募金活動に依っているが、これからはモンゴル側でも同国のNPOである Foundation for sick children を窓口で募金活動を行い、この活動が長く続くようにしたいとのことであった。今後はモンゴルの医師の教育と実際の治療の両面を友効に行うため、日本人医師を1班4～5人の班に分け、毎年検診1回、カテーテル治療2～3回の渡航を行う予定である。

4. 学会機関誌もしくは学会への関連論文（演題）発表状況

学会発表

- 1) 堀口泰典、羽根田紀幸、田村真通、高田秀実、富田英、野木俊二、岸田憲二. プルガン市エンデネート市での心臓検診 モンゴル渡航小児循環器診療の一環として. 第 110 回日本小児科学会. H19. 4. 22. 京都市
- 2) Horiguchi Y. Tomita H. Haneda N. Kishida K. Higaki T. Tamura M. Nogi S. Kataoka K. Takada H. Ueda H. and Tsurumi F. Effect of PDA to coronary flow. 3rd Congress of Asian Society of Pediatric Research. H19. 10. 7. Tokyo.
- 3) 富田英、曾我恭司、松岡孝、西岡貴弘、上村茂、羽根田紀幸、矢崎諭、畠山欣也、高室基樹、堀田智仙. 1歳未満の動脈管開存に対するコイル閉鎖術; My personal data. 第 19 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会. H20. 1. 18, 横浜市
- 4) 堀口泰典、富田英、羽根田紀幸、檜垣高史、田村真通、野木俊二、上田秀明、片岡功一、高田秀実、山本英一. PDA コイル閉鎖術前後の心行動態の変化. 第 19 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会. H20. 1. 18, 横浜市
- 5) 羽根田紀幸. 大動脈瘤ステント・心房中隔欠損・動脈管開存のカテーテルインターベンションビデオライブに対するコメンテーター. 第 72 回日本循環器学会ライブデモンストラーション. H20. 3. 27. 福岡市、福岡国際会議場

論文

- 1) Tomita H, Haneda N, Kuroe K, Nogi S, Ueda H, Kishida K, Higaki T, Horiguchi Y, Furui J, Tamura M, Takada H, Tsurumi F, Tanaka S and Yano H. Amplatzer Duct Occluder vs Coils in Mongolia. *Congenital Cardiology Today*. December 2007; - Volume 5, Issue 9; 1 - 7